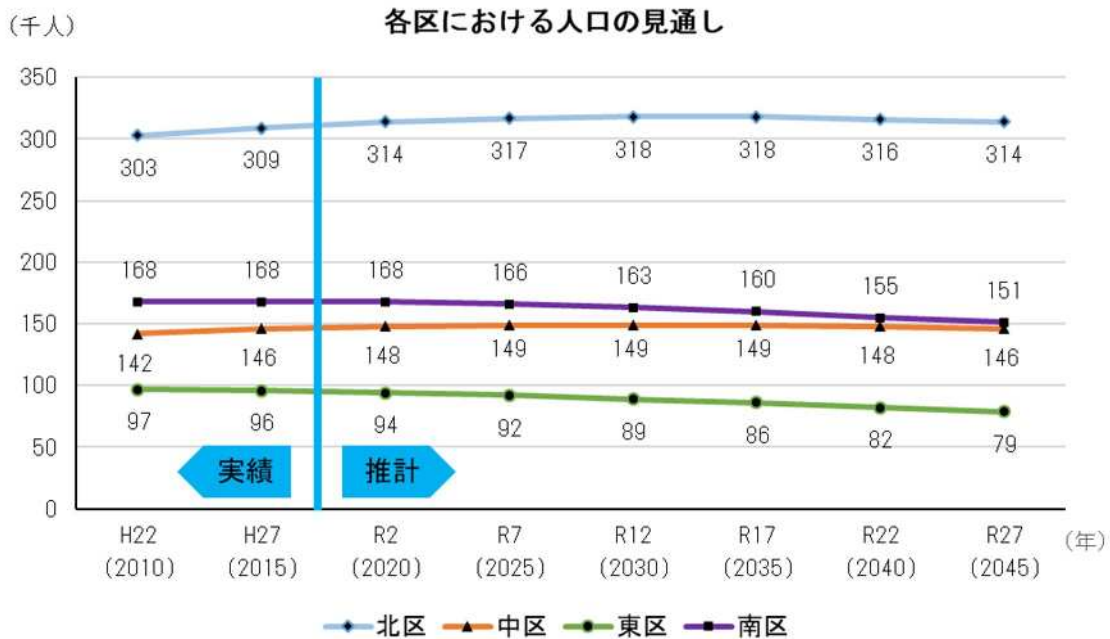


Ⅲ 區別計画

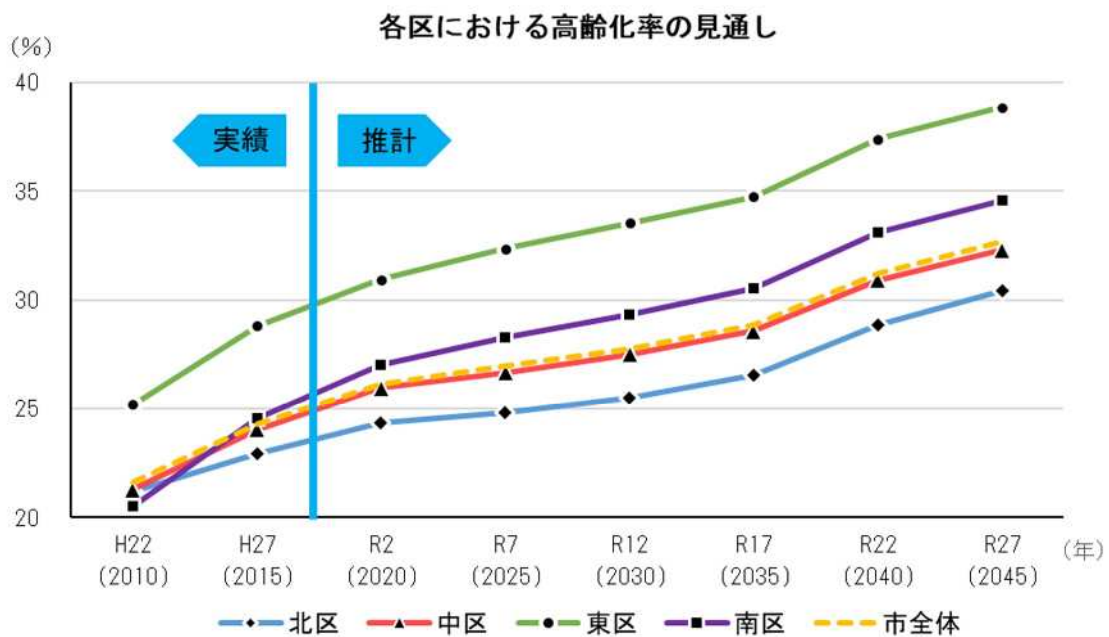
各区における人口の見通し

北区及び中区の人口は、当面増加が続くことが予測されますが、令和12（2030）年から令和17（2035）年をピークに緩やかに減少していく見通しです。南区の人口は、平成27（2015）年から令和2（2020）年をピークに減少に転ずる見通しであり、東区の人口は、平成22（2010）年をピークに既に減少に転じています。

高齢化の一層の進行により、令和27（2045）年には、全ての区で高齢化率が30%を超える見通しです。



(資料) 総務省「国勢調査」(実績値)、岡山市推計結果(推計値)



(資料) 総務省「国勢調査」(実績値)、岡山市推計結果(推計値)

北 区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・北区は旭川以西の中央部から北西部に位置し、平成17、19年の合併による旧御津町、旧建部町地域を含み、区域の面積は約451㎢と岡山市の約57%を占め、4区の中で最も広くなっています。
- ・緑豊かな中山間地と清流旭川等に沿って開けた岡山平野からなり、中心部近郊には、半田山、京山、吉備の中山など古くから生活に密着してきた里山があります。
- ・都心部には、国、県、市の各種行政機関が集中するとともに、JR岡山駅及び表町周辺には銀行、デパート、オフィスビル等の商業・業務機能が集積しています。
- ・JR岡山駅、岡山空港、山陽自動車道岡山インターチェンジなど広域交通網の拠点が立地し、広域的な交通アクセス性に優れています。

<人口・世帯>

- ・平成27年国勢調査では、人口は309,484人（市人口の43.0%）と、4区の中で最多であり、平成22年から2.2%増加しています。中心市街地近郊部では増加傾向が続いており、中心市街地も近年減少傾向に歯止めがかかっています。一方で、御津地域や市内唯一の過疎地域に指定されている建部地域等の中山間地域では減少傾向にあります。
- ・人口密度は、686.7人/㎢と市平均の910.8人/㎢を下回っていますが、中心市街地では特に高く、一方、御津地域、建部地域では低くなっています。
- ・高齢化率は、23.5%と市平均よりも若干低いものの、北部の中山間地域では、既に高齢化率が30%を超える地域があります。年少人口比率は、12.9%と4区の中で最も低くなっています。
- ・1世帯当たり人員は、2.06人と4区の中で最も少なく、単独世帯の割合は47.3%と4区の中で最も高くなっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は2.6%で、岡山市の外国人市民の約6割に当たる約7,700人が居住しています（令和元年9月末現在、住民基本台帳）。
- ・昼間人口が夜間人口を大きく上回り、4区の中で唯一流入超過となっています。

区 分		北 区	岡山市
面積 (㎢)		450.70	789.95
人口 (人)		309,484	719,474
平成22～27年人口増減率 (%)		2.2	1.4
人口密度 (人/㎢)		686.7	910.8
年齢別 割 合	0～14 歳 (%)	12.9	13.7
	15～64 歳 (%)	63.5	61.5
	65 歳以上 (%)	23.5	24.7
一般世帯数 (世帯)		145,834	308,807
1世帯当たり人員 (人)		2.06	2.27
世 帯 の 家 族 類 型	夫婦と子ども (%)	22.4	26.5
	単独世帯 (%)	47.3	37.9

(資料) 国土地理院「令和2年全国都道府県市区町村別面積調」、

(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

<地域資源>

<p>歴史・伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化資産の蓄積があり、文化財数は本市の約4分の3を占めています。 ・都心部には岡山のまちのルーツとなる岡山城や岡山後楽園があり、多くの観光客が訪れています。 ・北西部には、造山古墳など全国屈指の大古墳、吉備津神社、吉備津彦神社、高松城跡や足守の陣屋町、近水園など古代吉備以来の歴史・文化資産が数多く存在します。 ・吉備地域には撫川城跡、庭瀬城跡や犬養木堂の生家等、御津、建部地域には河原邸、成就寺三重塔等の歴史・文化資産があります。 ・都心部では「吉備津彦の鬼退治の神話」に登場する「温羅（うら）」を由来とする、うらじゃが平成6年から開催されています。また、平成30年には、古代吉備の遺産群を舞台とした「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」が日本遺産に認定されました。 ・吉備津神社の宮内踊り、建部地域のはっぼね桜まつり、建部祭り、志呂神社御供、御津地域の獅子舞フェスタ等の地域の伝統行事が今に受け継がれています。
<p>自然・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部には旭川の水辺や西川・枝川緑道公園があり、ホテルも見られます。 ・オオタカやムササビ、スイゲンゼニタナゴ、ダルマガエルなど貴重な野生生物が生息し、各地域で保全活動が行われています。
<p>特産品</p>	<p>農産物：一宮、津高地域の白桃、マスカット等のブドウ、足守地域の温室メロン、牧石地域の黄ニラ、御津地域の山の芋、建部地域のヨーグルト等</p> <p>水産物：旭川流域の鮎</p> <p>特産物：鳥城彫り、鳥城紬、撫川うちわ等</p>
<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部には、オリエン特美術館、県立美術館、岡山シンフォニーホール、岡山シティミュージアム等の文化・芸術施設や、岡山コンベンションセンター等の交流施設が集積しています。 ・都心部に近接して県総合グラウンドがあり、北西部には岡山市日応寺自然の森、北部には御津スポーツパーク、建部町総合スポーツセンターが整備されています。 ・岡山大学をはじめ、多くの高等教育機関が集積しており、学生の存在が地域に活力をもたらしています。 ・北西部には岡山空港があり、岡山リサーチパークが立地しています。 ・北部には豊かな自然をいかしたたけべの森公園やたけべ八幡温泉、環境学習センター「めだかの学校」があります。
<p>主な市の出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北区役所、支所（御津、建部）、地域センター（一宮、津高、高松、吉備、足守）、土木農林分室 ・福祉事務所（北区中央、北区北）、保健センター（北区中央、北区北） ・公民館（旭、足守、一宮、大元、北、吉備、京山、岡輝、岡西、高松、建部町、津高、御津、御南西）

2 現状と課題

<産業等>

- ・産業別就業者数は、第3次産業の割合が約8割と4区の中で最も高く、事業所数は卸売業・小売業の割合が高くなっています。
- ・多彩な農産物が生産されている特性をいかし、付加価値の高い高収益な農業の実現をめざしていくことが求められています。また、御津、建部地域等の中山間地域をはじめとして、農業の後継者不足が問題となっており、新たな担い手の育成等に取り組む必要があります。
- ・交通の優位性をいかし、産業利用の適地への企業立地が期待されています。
- ・商店街では空き店舗等が増加し、歩行者通行量は長期的に減少し続けており、商店街の魅力アップやまちなかの賑わい創出、回遊性の向上に向けた取組を進めていく必要があります。

<特色ある地域づくり>

- ・まちなかの歴史・文化・芸術に関する施設等が集積したエリアでは、その魅力をいかした地域づくりを進めていく必要があります。
- ・中山間地域では自然や農産物をいかした地域づくり、吉備路周辺や足守地域では歴史的資源をいかした地域づくり、一宮、津高地域では白桃やブドウ等の特産品をいかした地域づくりなど、それぞれの個性をいかした地域づくりを進めていく必要があります。
- ・区民と行政が区づくりの目標や課題を共有し、協働しながら、地域の特色や魅力をいかしたまちづくりを推進していく必要があります。
- ・地域の文化財、伝統行事や貴重な自然、スポーツ施設をいかした地域づくりを進めることにより、特に子どもに地域への愛着を醸成していく必要があります。
- ・西川緑道公園等におけるNPOや市民団体が主体となった取組が、まちなかの魅力と賑わい創出につながっていることなども踏まえ、その他の地域においても市民と協働し、多様な主体の力をいかした地域づくりを進めていく必要があります。

<交通>

- ・まちなかでは、公共交通の充実、歩行者にやさしい空間づくりや自転車利用環境の向上へのニーズが高くなっており、公共交通等の利便性を高め、まちなかの回遊性向上につなげていく必要があります。
- ・周辺地域からまちなかへの交通について、利便性の高い公共交通や渋滞のない自動車交通に対するニーズが高くなっています。
- ・中山間地域では、現在、御津、建部地域、足守地域及び馬屋上・野谷地区で生活交通[※]が運行されていますが、その他の地域においても今後の高齢化や人口減少の進行により、車の運転が困難な高齢者等の交通弱者の増加や公共交通の衰退が懸念され、買い物や通院等の日常生活に必要な交通手段を確保していくことが求められています。

<コミュニティ>

- ・地域の防災・防犯活動等の中心となる町内会への加入率は減少し続けており、4区の中で最も低くなっています。

- ・学生や単身者が多いことから居住者の移動が多く、1世帯当たりの人員数が4区の中で一番少なくなっています。また、外国人市民と共生できる地域づくりを進めていく必要があります。
- ・高齢化率が30%を超える地域が存在し、特に高齢化、過疎化が進んでいる中山間地域では、コミュニティ機能の低下が懸念されており、固有の歴史・伝統・文化の継承を含め、地域コミュニティの後継者を育成していく必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の町内会活動等が制約を受けています。感染症への正しい理解と適切な感染防止対策のもと、地域活動の活性化に向けた取組を進めていく必要があります。
- ・区づくり推進事業の申請件数は、一定水準で推移していますが、一層の利用促進により地域の活性化を図る必要があります。

<健康づくり>

- ・中学校区又は小学校区で健康市民おかやま21の推進体制があり、公民館等を拠点として地域の実情に合わせた健康づくりを行っています。
- ・若い世代、働き盛り世代に向けた健康づくり活動を強化するため、地域、企業や団体等との連携を深めていく必要があります。

<防災・防犯>

- ・平成30年7月豪雨をはじめ、近年、頻発している集中豪雨等により、旭川、笹ヶ瀬川流域では甚大な浸水被害が発生しており、丘陵部では土石流やがけ崩れ災害が発生するおそれがあるとともに、都心部では、雨水排水の役割も担う下水道施設の老朽化が進んでいることから、国、県と連携しながら災害に強い地域づくりを進めていく必要があります。
- ・各地域では、安全・安心ネットワーク、防犯ボランティア団体等により、活発な防災・防犯活動が行われていますが、多くの団体で構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。また、自主防災組織数は人口、世帯数からみると十分ではなく、さらなる結成を促す必要があります。
- ・通勤通学者が多いことから、地震等で交通機関が不通になった際の帰宅困難者への対応について、大規模集客施設等と協定を締結しています。
- ・区民千人当たりの刑法犯認知件数は、4区で最も多くなっています。
- ・地域における防災・防犯活動への支援や参加促進、事業者との連携強化等により、防災・減災、防犯力の高い地域づくりを進めていく必要があります。

3 区づくりの将来目標

自然と共生し、歴史と文化が薫る 賑わいと交流のまち 北区

北部の山間部や清流旭川をはじめとする豊かな自然と共生しながら、岡山城、岡山後樂園や吉備路等の豊富な歴史・文化資産等を最大限にいかして、多くの人々が交流する魅力と賑わいあふれるまちづくりを進めます。また、区民一人ひとりが互いに温かく支え合い、いきいきと活躍できる北区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

まちなかの魅力と賑わいを高め、周辺地域の多様な資源をいかす

- ・高次な都市機能が集積する都心部と自然、歴史・文化、食等の多様で豊かな資源に恵まれた各地域とが、それぞれの魅力を高め、発信することにより、区民の愛着と誇りを醸成するとともに、市内外から多くの人々が訪れ、賑わいあふれるまちづくりを進めます。

視点 2

人と人、地域と地域の交流・連携を深める

- ・都心部と地域の拠点とを利便性の高い公共交通ネットワーク等で結ぶとともに、都心部においては歴史・文化、学術・芸術等の集積をいかした多様な学びと交流、周辺地域においては歴史・文化をはじめ自然や農業をいかした交流を促進することにより、人と人、地域と地域が交流・連携するまちづくりを進めます。

視点 3

多様な人材が力を発揮し、ともに自らの地域を築く

- ・区民一人ひとりが、まちづくりの主役としてそれぞれの地域でいきいきと活躍し、学生やNPO等の多様な力をいかして、ともに築いていくまちづくりを進めます。
- ・誰もが、温かくふれあい、互いに支え合うことにより、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 まちなかの魅力と賑わいの創出

- ・西川緑道公園、石山公園や旭川の水辺等で開催される市民主体のイベント等を支援することにより、まちなかの賑わい創出を進めます。
- ・商店街等の主体的な取組や商店街と民間事業者等が連携して行う集客イベント等の活性化策を支援することにより、まちなかの魅力向上を図ります。
- ・うらじゃに代表される桃太郎まつり等の文化や食の交流イベントを行政と民間が一体となって進めます。
- ・まちなかの回遊性向上に向けて、県庁通り等で快適に楽しみながら歩ける歩行者優先の道路空間づくりを進めます。また、中心市街地の街路樹や都市公園樹木のボリュームアップなどを進め、まちなかで季節の移り変わりが感じられるような魅力ある都市空間づくりを図ります。
- ・多くの人が訪れるまちなかの美化活動や落書き対策を地域住民との協働により進めるとともに、ポイ捨て禁止、路上喫煙者への指導等に取り組みます。

方向性2 農村部、中山間地域の活性化

- ・特産である果樹の栽培をはじめとした新規就農者の確保など、農業を継続できる環境づくりと地域特性をいかした競争力の強化に取り組みます。
- ・農地・農業用施設の保全活動等の地域の共同作業を促進することにより、コミュニティの再生・強化を図ります。また、商工業者等とも連携し、地域内外の人材の多様な知恵とノウハウを活用しながら、地域資源をいかした農村観光や6次産業化等を幅広く進めることにより、地域の活性化を図ります。
- ・中山間地域等への地域外の人材の誘致及び地域住民との協力による地域の活性化促進に取り組みます。

方向性3 企業立地の推進

- ・交通アクセス性に優れた場所等の産業利用の適地において、用地確保に向けた民間の動きを支援し、企業立地を推進します。

方向性4 歴史・文化など多様な地域資源の再認識と活用・発信

- ・美術館、博物館、図書館、ホール等の豊富な文化、学習施設について、利便性や魅力を高めるとともに、県等と連携して様々な学習、体験の機会を設けることにより、文化・芸術、生涯学習活動やそれらを通じた交流を活性化します。
- ・岡山城、岡山後楽園を中心とする歴史・文化ゾーンや吉備路等の岡山を代表する地域資源については、県や関係団体等との連携・協働により、その魅力を高めて発信します。
- ・地域住民による地域の歴史・文化資産の保存、活用等の取組を支援するとともに、子どもの

頃から地域の歴史・伝統・文化に触れ親しむ機会を提供することにより、地域への愛着と誇りを醸成します。

- ・豊富な観光資源をいかした市内外との交流を進め、地域の観光ボランティア等との連携により訪れる人を温かくおもてなしします。
- ・地域との連携により、多様で豊かな自然環境と触れ合うことのできる環境づくりや、身近な自然環境を保全する担い手づくり等を進めます。
- ・地域の歴史や文化・自然などの地域資源を活用し、地域の特色や魅力をいかしたまちづくりを推進します。

方向性5 まちなかから中山間地域まで、地域特性に応じた交通利便性の向上

① まちなか公共交通の充実、自転車利用環境の向上

- ・多くの人が集まるまちなかの回遊性の向上を図るため、路面電車の岡山駅前広場への乗り入れや延伸、環状化等により、まちなかの魅力や賑わいをつなぐ公共交通の利便性の向上を図ります。
- ・まちなかでの駐輪場整備等の放置自転車対策や自転車走行空間の整備、コミュニティサイクル「ももちやり」の利用促進に取り組みます。
- ・まちなかへの車流入の減少や周辺道路の渋滞緩和を図るため、都市計画道路下中野平井線（中環状線）、都市計画道路米倉津島線（中環状線）等の幹線道路の整備を進めるとともに、鉄道やバスのわかりやすい案内情報の整備等により、公共交通の利便性を高めます。

② まちなかと周辺地域をつなぐ公共交通等の充実

- ・まちなかと周辺地域をつなぐ公共交通の利便性向上を図るとともに、周辺を含む沿線地域の活性化や観光振興を図ることを目的に桃太郎線LR T化の取組を推進します。また、まちなかへの交通アクセス性の向上や御津、建部地域等の周辺地域における円滑な移動を確保するため、県道等幹線道路の整備を進めます。

③ 中山間地域での生活交通の確保

- ・中山間地域における生活交通を確保するため、現在、生活交通が運行されている御津、建部地域及び足守地域では、利用促進と運行サービスの改善に取り組みます。その他の公共交通不便地域においても、先行事例等を参考にしながら、地域住民及び交通事業者との連携により、買い物や通院等の日常生活に必要な交通手段の確保について検討します。

方向性6 持続可能で活力のある地域づくり

① 多様な力をいかした地域づくり

- ・自らの地域を自らの手でつくり、地域への愛着を高める区づくり推進事業を促進します。
- ・単身者、学生、マンション居住者等の地域活動への参加促進や、若者の地域への関心を高める取組の実施等により、地域の新たな担い手づくりを進めます。
- ・年齢や国籍等に関わらず、誰もが参加しやすい地域づくりを進めるとともに、高齢者や子どもを地域で見守り、支え合う活動を促進します。
- ・地域づくりの主体である自治組織の活動を支援するとともに、NPO、事業者、大学や学

生等の多様な主体との連携を進め、持続可能で活力のある地域づくりを進めます。

- ・地域住民をはじめ、NPOや企業等による地域課題の解決への支援を行い、中山間地域等周辺地域の活性化に取り組みます。

② 地域、企業や団体等と連携した主体的な健康づくり

- ・公民館等での健康づくり講座の充実や市民の主体的な健康づくりの促進に向けた啓発活動を強化します。
- ・若い世代、働き盛り世代に向けた健康づくり活動を強化するため、企業や団体等との連携により健康づくりに関する啓発活動を進めます。

方向性7 連携・協働による防災・減災、防犯力の高い地域づくり

① 浸水対策

- ・国、県による旭川、笹ヶ瀬川、足守川、砂川等の改修等を促進するとともに、都心部における下水道施設の計画的な改築・更新等による雨水排水機能の強化、西部の市街地等での浸水対策等を進めます。また、土砂災害については、県による警戒区域等の指定や対策工事を促進します。
- ・町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布等を行うとともに、事前に大雨が予想される場合は、下流地域の水利権者の理解を得た上で、河川からの取水量の早期調整を行うなど、地域間の連携を深めることにより、浸水被害の軽減・防止を図ります。

② 地域の防災・防犯力の強化

- ・いつ起こるかかわからない土砂災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの作成や防災学習会の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- ・自主防災組織の結成を促進するとともに、地域防災リーダーの育成、防災訓練の支援、災害時の要配慮者の避難計画の策定支援等を通じて、自主防災組織への支援強化を図り、組織の活性化を推進します。
- ・避難所では、感染症対策物資の配備など感染症対策を行います。また、市民自らが身の安全を確保する上で感染症に留意した最適な避難行動がとれるよう、周知・啓発します。
- ・通勤通学者の多いまちなかでは、大規模集客施設等や交通事業者との連携を密にし、帰宅困難者への対応をはじめ、さらなる防災対策の充実を図ります。
- ・安全・安心な地域づくりを進めるため、安全・安心ネットワーク等による防犯パトロール等の自主的な地域の見回り活動を支援するとともに、防犯ボランティア団体への防犯講座の実施等により地域防犯活動を活性化します。
- ・地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援するとともに、警察や防犯団体等との連携を強化し、街頭犯罪や少年非行を防止し、犯罪のない社会づくりを進めます。
- ・主に北部地域では、落石や崩落のおそれのある道路法面があることから、日常的なパトロールや定期点検を行うとともに、特に危険度の高い法面については対策工事を実施します。

中 区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・ 中区は旭川の東、市のほぼ中央に位置し、面積は約5.1km²と市全体に占める割合は約6%で、4区の中で最小となっています。
- ・ 北には龍ノ口山、中央には操山の丘陵地があり、西には旭川、東にはその放水路である百間川が流れ、南部には児島湾に面した干拓による豊かな平野が広がっています。
- ・ 市街化区域面積が区域の約半分を占めており、その割合は4区の中で最も高くなっています。また、土地利用では、宅地の占める割合が3割を超えており、4区の中で最も高くなっています。
- ・ 市街地は大きく分けて、旧城下町の一部として古くから発展してきた東山・操山より西の旭川沿いの地域、操山より北で国道250号及び山陽本線に沿って東西に連続する地域、操山より南の県道岡山牛窓線に沿って住宅開発が進められてきた地域に分けられます。
- ・ 南部には米作を中心とした優良農地が広がり、農業生産の重要な役割を担っています。
- ・ 岡山港（高島地区）周辺や広域幹線道路沿線には、工業・物流機能が集積しています。

<人口・世帯>

- ・ 平成27年国勢調査では、人口は146,232人（市人口の20.3%）と4区の中で3番目であり、平成22年からの増加率2.8%は4区の中で最も高くなっています。
- ・ 人口密度は、2,853.3人/km²と市平均の910.8人/km²を大きく上回り、4区の中で最も高くなっています。
- ・ 高齢化率は、24.4%と市平均よりも若干低くなっていますが、高齢化率が30%を超える地域もあります。
- ・ 年少人口比率は、14.9%と市平均の13.7%を上回り、4区の中で最も高くなっています。
- ・ 1世帯当たりの人員は、2.33人であり、単独世帯の割合は4区の中で2番目に高く33.6%となっています。
- ・ 区民のうち外国人住民が占める割合は1.5%で、約2,100人が居住しています。（令和元年9月末現在、住民基本台帳）。

区 分		中 区	岡山市
面積 (km ²)		51.24	789.95
人口 (人)		146,232	719,474
平成22～27年人口増減率 (%)		2.8	1.4
人口密度 (人/km ²)		2,853.3	910.8
年齢別 割合	0～14歳 (%)	14.9	13.7
	15～64歳 (%)	60.8	61.5
	65歳以上 (%)	24.4	24.7
一般世帯数 (世帯)		61,412	308,807
1世帯当たり人員 (人)		2.33	2.27
世帯の 家族類型	夫婦と子ども (%)	28.8	26.5
	単独世帯 (%)	33.6	37.9

(資料)国土地理院「令和2年全国都道府県市区町村別面積調」

(資料)総務省「平成27年国勢調査」

<地域資源>

<p>歴史・伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 龍ノ口山の南麓には、この地域が備前地域の中心地であったことを示す賞田廃寺、幡多廃寺等の古代寺院跡や律令時代の備前国庁跡があり、操山周辺には金蔵山古墳等の古墳群や、曹源寺、安住院等の歴史・文化資産が存在します。 津田永忠による倉田新田・沖新田開発、倉安川、百間川開削等の大規模な農業・土木遺産のほか、旭川のケレップ水制群等の土木遺産が存在します。令和元年には、約50年に及んだ百間川の改築が完了するとともに、「倉安川・百間川かんがい排水施設群」が世界かんがい施設遺産に登録されました。 岡山藩の医学館に始まり、旧制第六高等学校や岡山師範学校など、数多くの学校を有してきました。 児童福祉の父と呼ばれる石井十次や岡山博愛会のアリス・ペティー・アダムスが活動するなど、福祉分野において先駆的な取組がなされてきた伝統があります。
<p>自然・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> 龍ノ口山と操山は市街地に隣接する里山として、景観、生物多様性の面から貴重な緑地となっており、市民に憩いの空間を提供しています。 旭川、百間川のほか、倉安川、祇園用水等の水路群が豊かな水辺空間を形成しており、水路の中にはアユモドキ（天然記念物）が生息する地域があります。 高島地域は都心部に近い地域でありながら、市内でも有数のホテルの生息地となっています。
<p>特産品</p>	<p>農産物等：沢田の柿、酒米最高品種の雄町米、全国名水百選の一つ雄町の冷泉等</p>
<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> 操山公園里山センターは、市民の自然体験活動の拠点となっています。 岡山の海の玄関である岡山港（高島地区）は、岡山と小豆島とを結ぶフェリーの発着口として利用されています。 大学が2校、高等学校が6校あり、文教地区としての機能を担っています。 スポーツ施設として、百間川緑地や奥市公園があります。
<p>主な市の出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中区役所、富山地域センター 中区福祉事務所、中区保健センター 公民館（操山、東、操南、富山、高島、東山）

2 現状と課題

<交通>

- ・ 都心部に向かう旭川等の橋近辺や県道岡山牛窓線など片側1車線のみ的一部幹線道路等では、通勤時に慢性的な渋滞が発生しており、バスの遅れ等も生じています。また、自転車利用環境向上への市民ニーズが高くなっています。
- ・ 交通渋滞を解消するとともに、救急車等、緊急車両の走行を含め、病院等の主要な公益的施設への交通アクセス性を向上させるため、外環状・中環状線等の幹線道路の整備を推進する必要があります。

<土地利用>

- ・ 都心部から連続した市街地が広がっており、職と住が近接したベッドタウンとしての性格を有しています。
- ・ 市街化区域では、都市基盤が不十分な市街地がみられるとともに、市街地周辺の市街化調整区域では、農地等のミニ開発による宅地化が進行しており、市街地環境や住環境の改善等が課題となっています。
- ・ 岡山運輸支局の北区富吉への移転に伴い、跡地（中区藤原）の利活用が重要な関心事項となっています。
- ・ 平成10年に先行取得した図書館整備用地（中区高屋）が未活用となっています。

<自然環境>

- ・ 操山、龍ノ口山やアユモドキが生息する祇園用水等の水路群をはじめとした多様で豊かな水と緑の空間は、市民共有の財産であり、豊かな自然環境を保全していく必要があります。

<特色ある地域づくり>

- ・ 操山北麓の沢田地域では、地域ブランドとして有名な沢田の柿を生産しており、収穫時には「沢田の柿まつり」を開催し、地産地消の推進と地域振興を図っています。
- ・ 酒米の最高品種である雄町米については、ご当地グルメを作り、地域イベントで販売するなどのPR活動が行われています。
- ・ 自然豊かな操山周辺には、曹源寺をはじめとする歴史・文化資産があり、これらを歩いて巡ることのできる遊歩道が整備されています。また、区内を流れる旭川、百間川には、区民が身近に水辺で憩えるよう、親水公園やボートコース等の施設も整備されています。
- ・ 歴史・文化資産や地域特産物等を活用し、地域を活性化していく必要があります。

<コミュニティ、市民協働>

- ・ 町内会加入率は、マンション居住世帯の増加などにより減少傾向にあり、市平均を下回っています。高度経済成長期に開発された団地等、近年高齢化が急速に進んだ地域では、自治組織や団体の構成員の高齢化が進んでいます。
- ・ 暮らしやすい地域づくりに向けて、地域住民による助け合いの仕組みづくり等、主体的な課題解決のための取組が進んでいます。
- ・ 区内の大学と地域とが連携した認知症カフェや里山再生活動が行われるとともに、学生と地域住民が協働して学区内避難路の危険箇所の点検や災害避難マップの作成等に取り組んでいます。
- ・ 中区役所と区内にある大学との間で包括的な連携協定を締結し、地域防災、地域福祉、地

域の活性化のための人材育成等について相互協力を進め、高齢者の健康チェック等を行っています。

- ・ 多様な主体の力をいかした地域づくりを進めていくため、自治組織、NPO、企業、大学等との協働による取組を拡大するとともに、若年層をはじめとした住民の地域活動への積極的な参加を促進していく必要があります。また、新型コロナウイルス等の感染症を正しく理解し、適切な感染防止対策のもと、地域活動の活性化に向けた取組を進めていく必要があります。

<健康づくり>

- ・ 中学校区又は小学校区で健康市民おかやま21の推進体制があり、特に学校と連携して食育等の普及啓発活動を推進しています。学校と連携した普及活動が進む中で、子どもの保護者など幅広い世代に向けて健康づくりの取組を広げる必要があります。

<防災・防犯>

- ・ 想定される南海トラフ巨大地震等による津波の発生時には、操山以南の海拔ゼロメートル地帯を中心に多くの被害が発生するおそれがあることから、被害を最小限にとどめるための災害に強い地域づくりを進める必要があります。
- ・ 操山以南の江戸時代の新田開発によって形成された地域は土地が低く、宅地化の進行により、水田が持つ保水機能が低下したこともあり、台風や平成30年7月豪雨等の頻発する集中豪雨により市街地等での浸水被害が発生していることから、市街地等の浸水対策を進めていく必要があります。
- ・ 通学時の見守りや地域パトロールなど、地域の防犯に重要な役割を果たしている防犯ボランティア団体では、多くの団体で高齢化、担い手不足が課題となっており、地域防犯活動の活性化に向けた取組を進める必要があります。

3 区づくりの将来目標

ふれあいと活気にあふれ、快適で住む喜びに満ちたまち 中区

旭川や百間川、操山、龍ノ口山に代表される豊かな水や緑を身近に感じながら、都心部から連続した市街地が広がり利便性の高い暮らしを楽しむことのできる住みやすさに一層の磨きをかけます。また、地域での支え合いや様々な主体との協働による活力ある地域づくりを進め、歴史・文化資産、特産品等の地域資源も活用することにより、子どもから高齢者までの誰もが安心・快適に暮らせる、住む喜びに満ちた中区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

「自然」と「便利さ」が調和する住の魅力を高める

- ・都心部へのアクセス性に優れ、職住近接を可能とする利便性の高い住環境と豊かな自然環境が調和し、人口増加の続く高いポテンシャルをいかした、快適で住みやすいまちづくりを進めます。

視点 2

「住」を彩る水と緑、歴史・文化などの地域資源をいかす

- ・暮らしに憩いと潤いをもたらす豊かな水と緑の環境を守り、次世代へ継承していきます。
- ・各地域に息づく歴史・文化資産や特産品等の地域資源を活用、発信していくことにより、活力のあるまちづくりを進めます。

視点 3

多様な地域の担い手が活躍する

- ・自治組織、NPO、企業、大学等の多様な主体がつながり、若者をはじめとした様々な世代が、活発に交流できるまちづくりを進めます。
- ・地域の防災・防犯力を高め、交通安全対策を充実することにより、災害に強く、犯罪や交通事故の少ない安全なまちづくりを進めます。
- ・地域での健康づくり活動や見守り、支え合いにより、誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性 1 交通利便性の向上

- ・都心部への交通アクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、都市計画道路下中野平井線（中環状線）、主要地方道岡山赤穂線（外環状線）等の幹線道路の整備を進めます。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、鉄道、バスのわかりやすい案内情報の整備や、地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入について検討します。また、自転車利用環境の改善を図るため、走行空間等の整備を進めます。

方向性 2 豊かな自然環境の保全

- ・操山公園里山センターにおいて、自然保護活動を行うボランティアやグループ等に活動・交流の場を提供するとともに、センターボランティアとの協働による自然観察会や自然・歴史に関する講座等の開催を通じて、自然と人との関わり方や里山を守り育てるための情報提供、意識啓発を図るなど、里山の保全を図ります。
- ・アユモドキやホタルなど、地域の身近な野生生物をシンボルにした市民主体の自然保護活動への支援やエコボランティアの育成等を通じて、地域の自然環境保護に取り組む担い手づくりを推進し、地域の生態系や自然環境を守り、次世代へ継承していきます。

方向性 3 地域資源の活用と発信

- ・龍ノ口地域で生産される雄町米や、操山北麓で生産される沢田の柿をはじめとした地域特産物を地域の行事やイベントを通じてPRすることにより、地域で誇れるブランドとして守り育て、次世代へつなげていきます。
- ・操山などの里山、旭川、百間川沿いの水辺空間、曹源寺をはじめとする歴史・文化資産をウォーキングコースとして活用するなどにより、地域の魅力の再発見や市民の健康づくりにつなげていきます。

方向性 4 多世代の交流・協働による地域づくり

① 地域コミュニティの活性化

- ・地域の様々な行事等の交流の場を通じて、古くから住んでいる住民と新しい住民、新しい住民同士の交流が促進され、いざという時に地域で支え合えるよう、地域の結びつきを支援します。
- ・地域活動の担い手を育成するため、子どもから大人までが参加しやすいイベントづくりや、様々な情報発信を通じて、若年層の地域への参加を促進します。
- ・区づくり推進事業等を活用し、地域住民が主体的に取り組む地域交流・地域活動を支援するとともに、地域交流の拠点である公民館と連携し、地域活動やボランティア活動を推進します。

② 多様な主体との協働による地域活性化

- ・自治組織やNPO、企業、大学など、多様な主体との連携を進め、地域活動の担い手づくりを進めます。その中で、環境美化への協力や地域イベントへの協賛等の企業参加や区内の大学や高校との連携を進めます。
- ・大学・短大の医療や保健、福祉、生活科学等の専門性を区民の健康づくり、地域の防災や福祉の充実、人材育成にいかすとともに、学生の地域活動への参加を促進し、多世代の交流等による地域活性化を図ります。

③ 学校と連携した健康づくりの推進

- ・健康づくりの啓発について学校との連携が進む中、次代を担う子どもだけでなくその保護者に対する啓発にも取り組みます。

方向性5 地域住民の手による防災・防犯力の向上

① 地域防災力の向上

- ・南海トラフ巨大地震や集中豪雨等の災害に備えるため、自主防災組織の支援強化や育成及び新規結成を促していくとともに、町内会や自主防災組織が実施する防災訓練等を支援し、住民の防災意識を高めることにより、地域防災力の向上を図ります。
- ・高齢者や障害者など災害時における要配慮者への支援体制を充実させるため、地域との連携を進め、災害時の要配慮者の避難計画の策定等を支援します。
- ・災害時に備えての食料や物資を分散備蓄し、不測の事態への対応を進めるとともに、災害時の避難所運営の在り方について、地域や学校等と検討を進めます。
- ・避難所の過密を防ぎ、いざというときに安全な避難行動が取れるよう、避難所に限らず、親族・友人宅への避難や自宅での垂直避難の検討等について周知・啓発を行います。
- ・避難所内の感染症対策として、マスク、非接触型体温計等を配備し、体調不良者のための専用スペースを確保します。また、定期的な清掃、消毒などを実施します。
- ・いつ起こるかわからない津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの作成や出前講座の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。

② 津波・浸水対策

- ・津波や大雨による浸水被害を軽減するため、国、県による旭川の護岸整備や沿岸部の津波・高潮対策を促進するとともに、倉安川の堤防護岸整備や河床掘削等の河川改修、用排水路の整備・改良を進め、市街地等の浸水対策に取り組みます。
- ・町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布を行うとともに、事前に大雨が予想される場合には、地域の水利権者等との協力のもとで倉安川等の水位調整を行うなど、共助による浸水対策を推進します。

③ 地域防犯

- ・防犯ボランティア団体に対する防犯や交通安全に関する情報提供や研修等を通じて、地域防犯活動の活性化に向けた支援を行います。
- ・警察や防犯団体との共催による啓発活動の実施など、関係団体との連携を強化するとともに、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援することにより、街頭犯罪や少年非行を防止し、犯罪のない社会づくりを進めます。
- ・地域イベントでのブース設置や区民ホールでのパネル展等による防犯活動の紹介、公民館と連携した情報提供を推進することにより、地域防犯活動の活性化を図ります。

東 区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・東区は市の南東部に位置し、平成19年の合併による旧瀬戸地域を含み、区域の面積は約161km²で本市の約20%を占めています。
- ・一級河川の吉井川が区域を貫流し、中央には芥子山があり、南は児島湾と瀬戸内海に面し、沖合には市内唯一の有人離島である犬島があります。
- ・区域全体が都市計画区域であり、土地利用状況では、田、畑の占める割合が南区に次いで高くなっています。
- ・吉井川は、散策やスポーツ等の身近な憩いの場として親しまれており、吉井川、百間川の河口一帯には、干拓による広大で豊かな農地が広がり、良好な自然景観を形成しています。
- ・西大寺地域は、東備地域の中心地であり、吉井川河口の港町として、また、西大寺観音院の門前町として発展してきた経緯から、行政・商業機能等が集積しています。
- ・県道岡山牛窓線沿線や上道地域では市街化が進展するとともに、臨海部、新産業ゾーン、瀬戸地域、上道地域には工場が集積し、本市の製造業の中核を担っています。
- ・瀬戸地域は、山陽自動車道へのアクセスが良好なことなどから、数多くの企業が進出するとともに、県南都市圏の近郊住宅地としても発展してきました。

<人口・世帯>

- ・平成27年国勢調査では、人口は95,577人（市人口の13.3%）と、4区の中で最少となっています。平成22年から1.4%減少しており、4区の中で唯一、人口減少期に突入しています。
- ・人口密度は、595.4人/km²と市平均の910.8人/km²の約3分の2となっており、4区の中で最も低くなっています。
- ・高齢化率は、28.9%と4区の中で最も高く、今後さらに上昇することが見込まれています。一方、生産年齢人口の割合は、57.9%と4区の中で最も低く、年少人口比率も13.1%と北区に次いで低くなっています。
- ・1世帯当たりの人員は、2.58人と4区の中で最も多く、単独世帯の割合は、25.1%と4区の中で最も低くなっています。一方、夫婦と子どもからなる世帯の割合は、30.7%と南区に次いで高くなっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は1.5%で、約1,500人が居住しています。（令和元年9月末現在、住民基本台帳）。

区 分		東 区	岡山市
面積 (km ²)		160.53	789.95
人口 (人)		95,577	719,474
平成22~27年人口増減率 (%)		△1.4	1.4
人口密度 (人/km ²)		595.4	910.8
年齢別 割 合	0~14歳 (%)	13.1	13.7
	15~64歳 (%)	57.9	61.5
	65歳以上 (%)	28.9	24.7
一般世帯数 (世帯)		36,127	308,807
1世帯当たり人員 (人)		2.58	2.27
世帯の 家族類型	夫婦と子ども (%)	30.7	26.5
	単独世帯 (%)	25.1	37.9

(資料) 国土地理院「令和2年全国都道府県市区町村別面積調」、
(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

<地域資源>

<p>歴史・伝 統 ・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代から500年以上の歴史を誇る西大寺会陽（はだか祭り）は、平成28年3月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。 ・国指定史跡の大廻小廻山城跡、万富東大寺瓦窯跡、西大寺観音院等の歴史・文化資産が数多く残されています。 ・津田永忠による幸島新田、沖新田開発という歴史に残る業績があるとともに、備前国の近世社会への扉を開いた宇喜多氏ゆかりの乙子城跡、亀山城（沼城）跡等が残されています。また、倉安川の取水口にある「倉安川吉井水門」は、令和元年に、「倉安川・百間川かんがい排水施設群」として、世界かんがい施設遺産に登録されました。 ・吉井川の港町として栄えてきた五福通り周辺は、伝統的な建造物群による景観が評価され、映画やドラマのロケ地となっています。
<p>自然・景 観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・犬島には、犬島精錬所美術館があり、瀬戸内国際芸術祭を契機に観光地として脚光を浴びています。 ・豊地域のダルマガエル、瀬戸地域のアユモドキや宗堂桜、大宮地域のホタルなど、希少な動植物が生息し、各地域で保全活動が行われています。
<p>特産品</p>	<p>農産物：上道・古都地域のニューピオーネ、雄神地域のあたご梨、上南地域のイチゴ、瀬戸地域の太秋柿・白桃等</p> <p>海産物：朝日・九幡地域のノリ</p>
<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区域の中心部には、東区役所をはじめ市の関係機関があり、これらに隣接して、西大寺緑花公園、体験学習施設である百花プラザがあります。 ・上道地域には、農業公園として整備された三徳園があります。 ・スポーツ施設として向州公園、六番川水の公園、瀬戸町総合運動公園等があります。また、政田サッカー場はファジアーノ岡山の練習拠点ともなっています。 ・犬島には、自然の家、キャンプ場等が整備されています。 ・宝伝海水浴場があり、瀬戸内の多島美を楽しむことができます。
<p>主な市の 出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東区役所、瀬戸支所、上道地域センター、市民サービスセンター（古都、朝日） ・東区福祉事務所、東区保健センター ・公民館（旭東、西大寺、山南、上道、上南、瀬戸、万富）

区の概況図



2 現状と課題

<特色ある地域づくり>

- ・西大寺地域の中心部における「西大寺冬フェスティバル」や「西大寺朝市」、瀬戸地域における「三谷公園もみじフェスタ」など、地域が主体となったイベントが開催されています。
- ・スポーツ・文化活動が活発で、東区体育協会連合会等が主催するスポーツ大会や「郷土芸能フェスティバル」等に加え、平成24年からは区民主導での「おかやま西大寺マラソン」が開催されています。
- ・伝統的な建造物群が残る五福通りでは、まちなみの保存と活用が求められており、平成26年からは地域主体の「西大寺五福通りレトロ・マルシェ」が開催されています。
- ・西大寺会陽には、外国人を含む多くの観光客が訪れ、海外マスメディアにも多く取り上げられています。また、犬島は、瀬戸内国際芸術祭の開催により文化・芸術の島として注目が集まっています。
- ・新たな人を呼び込むためにも、特色ある行事やイベント等を継承し、活動を担っていく人材の育成を進めるとともに、様々な地域資源を活用し、その魅力を発信していくことが求められています。
- ・東区役所、西大寺緑花公園や複合商業施設が整備された「元気な新拠点」は、地域の交流の場としての一層の活用が期待されています。
- ・地域固有の魅力ある資源を活かす取組を、市民をはじめNPOや企業等の多様な主体と協働して進めることが求められています。
- ・身近なまちづくりや地域課題の解決のため地域資源や特色をいかしたまちづくりを進めていく必要があります。

<人口・コミュニティ>

- ・国勢調査でみると、平成22年をピークに既に人口減少期に突入しており、東南部や東部には人口減少率が高い地域も存在します。
- ・町内会加入率は、4区の中で最も高いものの、近年減少傾向にあります。また、高齢単身世帯の割合は低いものの、高齢化率が30%を超える地域もあることから、多様な年代が地域活動に参加しやすい環境づくりや若者をはじめとする新たな担い手の育成等により、地域コミュニティの活性化を図り、持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。
- ・活発な地域コミュニティ活動の持続のためにも、感染症を正しく理解し、適切な感染防止対策のもと、地域活動の活性化に向けた取組を進めていく必要があります。

<産業・農業>

- ・産業別就業者数をみると、第1次産業と第2次産業の割合がそれぞれ4区の中で最も高くなっており、製造品出荷額についても、4区の中で最も多く、内訳としては、飲料・たばこ・飼料製造業の割合が高くなっています。
- ・美作岡山道路における瀬戸インターチェンジの整備を契機とした企業誘致を進める必要があります。
- ・南部の広大な干拓地では、米麦の生産が盛んであり、区内各地域では、ブドウ、白桃、梨、イチゴなどの果樹栽培で高付加価値型農業が行われていますが、農業後継者不足等の課題が

あり、農業の担い手の育成を図る必要があります。

<交通>

- ・外出する際に自家用車を利用する区民の割合が高く、都心部へのアクセス集中がみられることから、渋滞対策や公共交通の利便性向上が求められています。
- ・千種地区、角山地区及び城東台・草ヶ部地区では地域住民及び交通事業者との連携による新たな交通手段の導入が進んでいます。
- ・今後、高齢化が一層進むことが見込まれることから、公共交通不便地域において買い物や通院等の日常生活に必要な交通手段の確保を地域との協働によりさらに進めていく必要があります。

<健康づくり>

- ・健康市民おかやま21東区地域推進会議では、これまで歯と口腔の健康づくりを重点的に取り組んできましたが、今後は運動を通じた健康づくりを進めるなど活動の幅を広げるとともに、区全域だけでなく、中学校区又は小学校区単位での推進組織をいかし、地域の特性に合わせた健康づくり活動を進めていく必要があります。

<防災・防犯>

- ・集中豪雨や台風の際に、砂川流域では浸水被害、東南部の瀬戸内海沿岸部では高潮被害が発生しており、平成30年7月豪雨時には砂川の一部決壊により甚大な浸水被害が発生しました。また、南部の干拓地を中心に、南海トラフ巨大地震等での液状化や津波による浸水被害等が起こる可能性が指摘されています。これらのことから、国、県と連携しながら災害に強い地域づくりを進める必要があります。
- ・各地域では、地域防災・防犯の担い手である地域組織による活動が活発に行われていますが、構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。これらの自主的な活動を維持・強化するための支援とともに、非常時に備え、平素からの普及啓発活動等に取り組む必要があります。

3 区づくりの将来目標

いつまでも住み続けたい 歴史が息づき愛着の持てるまち 東区

まちに息づく特色ある歴史・伝統・文化と豊かな自然環境等の地域資源の魅力をいかしながら、地域で生まれ育った若者をはじめ、誰もが地域に愛着と誇りを持ち、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進め、人口減少社会が既に到来している中であっても、持続可能で活力ある東区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

独自の歴史・伝統・文化をいかす

- ・独自に培われてきた歴史・伝統・文化をいかしたまちづくりにより、区民の地域への愛着と誇りを醸成します。
- ・高い区民力をいかしながら、各地域で特色ある行事・イベントを開催するとともに、様々な地域資源の魅力を積極的に発信することにより、区内外の交流や多世代のふれあいを活発化させ、賑わいのある、人を呼び込むまちづくりを進めます。

視点 2

産業・農業を振興し、地域経済を活性化する

- ・企業立地の推進等を通じて産業を振興し、雇用の場を創出するとともに、魅力ある農業を振興することにより、地域経済を活性化させ、持続可能なまちづくりを進めます。

視点 3

自然と共生した、安心・快適な暮らしを実現する

- ・交通等の生活の利便性を高め、世代を問わず豊かな自然と共生しながら快適で健やかに暮らせるまちづくりを進めます。
- ・地域の強い結束をいかし、みんなで支え合い、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らすことのできる、安全・安心のまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 地域資源をいかした魅力と賑わいづくり

- ・各地域の伝統行事・イベント等に多くの人を呼び込むため、地域との協働により一層の魅力向上に努めます。また、様々な行事を継承するため、活動を担う人材の育成を進めます。
- ・地域の歴史資産の由来等を記した看板等の活用により、市民や観光客がまち歩きを楽しみながら歴史・伝統・文化への理解を深められる環境づくりを進めます。
- ・五福通り周辺の伝統的建造物群学術的調査の成果を踏まえ、地域住民による主体的なまちなみの保存や活用への取組を支援します。
- ・国の重要無形民俗文化財である西大寺会陽や、瀬戸内国際芸術祭の舞台の一つであり新たに情報通信基盤の整備を行う犬島など、地域の様々な観光資源について、地域住民、周辺市町、事業者との連携を図りながら効果的な活用を進め、観光客の増加、周遊促進を図ります。また、海外からの誘客も念頭に置き、その魅力を積極的に情報発信します。
- ・区中心部に整備された「元気な新拠点」が賑わいをもたらす地域の交流の場となるよう、活用を促進します。
- ・政田サッカー場を練習拠点としているファジアーノ岡山と連携した地域スポーツの振興を促進します。
- ・地域住民をはじめ、NPOや企業等による地域課題への取組や地域の産品等を活用した地域活力の創出などに対する支援を進めます。
- ・主に中山間地域等への地域外の人材の誘致及び地域住民との協力による地域活性化の促進を図ります。

方向性2 多世代が交流・活動できる地域づくり

- ・区づくり推進事業等を活用しながら、地域のアイデアをいかした取組を促進し、地域住民が主体的に進める地域づくりを支援します。
- ・町内会をはじめとした地域自治組織と小・中・高等学校、大学等の学校や事業者等との連携を進め、若者や働く世代等、多世代の地域活動への参加を促進します。
- ・地域活動を担う人材の育成につながる講座等の開催などを通じて、地域の新たな担い手の確保・育成を図ります。
- ・地域の様々な行事等を通じた多世代の交流を促進するとともに、子ども、高齢者等を地域住民全体で見守り、支え合う地域づくりを促進します。

方向性3 企業立地の推進と持続可能な農業の振興

① 優位性をいかした企業誘致

- ・美作岡山道路における瀬戸インターチェンジの整備を契機として、インターチェンジ周辺等の産業利用の適地に用地を確保できるよう地域と連携して取り組み、瀬戸地域等への企業立地を推進します。

② 持続可能な農業の振興

- ・農業の持続的な振興を図るため、新規就農者等の担い手の確保、経営規模の拡大、付加価値の高い農産物の生産と販路拡大等、経営力の向上に向けた施策を推進するとともに、これを下支えするため、農地の大区画化や排水改良等を通じて農業生産性の向上を図ることにより、「儲かる農業」をめざした取組を進めます。

方向性4 交通利便性の向上

- ・美作岡山道路の整備により、近隣の工業団地や住宅団地等から高速道路へのアクセス強化や緊急時、災害時における交通の確保等を図ります。
- ・都心部へのアクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、主要地方道岡山赤穂線（外環状線）、県道岡山牛窓線、県道西大寺山陽線、市道西大寺上中川町1号線等の幹線道路の整備を進めます。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、鉄道、バスのわかりやすい案内情報の整備等を進めます。
- ・公共交通不便地域では、先行事例等を参考にしながら、地域住民及び交通事業者との連携により、買い物や通院等の日常生活に必要な交通手段の確保について検討します。

方向性5 健やかに暮らせる地域づくり

- ・地域の様々な団体が協力して、地域の魅力を再確認して作り上げたウォーキングマップ「ええとこ発見図」等を効果的にPRし、その活用を促進することにより、区民が地域の歴史・文化等への理解を深めながら、気軽に歩くことのできる機会の増加を図ります。
- ・地域の特性に応じた健康づくりをより一層進めるため、健康市民おかやま21東区地域推進会議の活動の充実を図ります。

方向性6 安全・安心な地域づくり

① 津波・浸水対策

- ・南部の干拓地等での津波・高潮被害や大雨による浸水等の被害を軽減するため、国、県による吉井川、砂川の早期改修、海岸堤防の津波・高潮対策や耐震化を促進するとともに、市街地等での浸水対策を進めます。
- ・町内会へ防災備蓄土、土のう袋を配布するとともに、豪雨が予想される場合には、地元水利権者等も含む行政と住民が互いに協力しながら、流末の遊水池の有効活用や河川からの取水調整、河川の水位上昇に伴う各種の操作等により、浸水被害の軽減・防止を図ります。

② 地域の防災・防犯力の強化

- ・地域における防災・防犯の担い手である町内会、安全・安心ネットワーク、自主防災組織等による自主的な活動を支援し、安全・安心な地域づくりを進めます。
- ・災害による地域の被害を防止・軽減するため、地域防災リーダーの育成や防災資機材の支給、防災訓練への支援等を通じて、自主防災組織への支援強化を図り、既存組織の活性化と新規結成を促します。また、災害時の要配慮者の避難計画の策定等を支援します。
- ・南海トラフ巨大地震等により交通網が寸断された場合にも、避難所に必要物資が配布され

るよう、備蓄物資の分散化を進めます。

- いつ起こるか分からない土砂災害や高潮被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの作成や出前講座の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- 感染症対策として、市民には安全を確保した上で、親族・友人宅への避難や自宅での垂直避難も検討するよう周知・啓発します。
- 避難所内の感染症対策として、マスク、消毒液、非接触型体温計、ベッド、パーテーションなどの配備を進めます。また、定期的な体温測定や清掃、消毒などを実施し、体調不良者のための専用スペースを確保します。
- 安全・安心ネットワーク等による子どもの登下校時の見守り活動や交通安全教室の開催等の自主的な活動を支援するとともに、防犯に関する出前講座の実施等により防犯ボランティア団体の活動を活性化します。また、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援するとともに、警察や防犯団体等との連携を強化しながら交通事故や犯罪を抑制します。

南区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・ 南区は市の南部に位置し、平成17年の合併による旧灘崎町地域を含み、区域の面積は約127km²で岡山市の約16%を占めています。
- ・ 旭川右岸の干拓地と児島半島の丘陵地が、児島湾と児島湖を囲むように位置しており、東には旭川が児島湾に注ぎ、中央に笹ヶ瀬川、南部に倉敷川が日本最大の人造湖（ダム湖を除く）である児島湖に注いでいます。
- ・ 区域の過半が江戸時代以降の干拓地であり、南部には岡山市の農業の中心をなす広大な穀倉地帯が広がっています。経営耕地面積は4区中最大で、その中でも田の割合が4区の中で最も高くなっています。
- ・ 区域の北部は、都心部から連続する市街地が広がっており、岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地しています。
- ・ 道路は、東西に国道2号、南北に国道30号が整備されています。また、市道藤田浦安南町線（外環状線）や県道岡山児島線等の整備を推進しています。

<人口・世帯>

- ・ 平成27年国勢調査では、人口は168,181人（市人口の23.4%）と4区の中で2番目に多くなっており、平成22年から0.3%増加しています。
- ・ 人口密度は、1,319.3人/km²と市平均の910.8人/km²を上回り、4区の中で2番目に高くなっています。
- ・ 年少人口比率は、14.5%と平成22年から0.7ポイント減少し、高齢化率は、24.8%と平成22年から4.3ポイント増加しています。
- ・ 1世帯当たりの人員は、2.52人と4区の中で2番目に多く、夫婦と子どもからなる世帯の割合は、31.2%と4区の中で最も高くなっています。
- ・ 区民のうち外国人住民が占める割合は1.4%で、約2,300人が居住しています（令和元年9月末現在、住民基本台帳）。

区 分		南 区	岡 山 市
面積 (km ²)		127.48	789.95
人口 (人)		168,181	719,474
平成22~27年人口増減率 (%)		0.3	1.4
人口密度 (人/km ²)		1,319.3	910.8
年齢別 割 合	0~14歳 (%)	14.5	13.7
	15~64歳 (%)	60.7	61.5
	65歳以上 (%)	24.8	24.7
一般世帯数 (世帯)		65,434	308,807
1世帯当たり人員 (人)		2.52	2.27
世帯の 家族類型	夫婦と子ども (%)	31.2	26.5
	単独世帯 (%)	28.0	37.9

(資料) 国土地理院「令和2年全国都道府県市区町村別面積調」、

(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

<地域資源>

<p>歴史・伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興除、藤田、灘崎地域には、県指定文化財である児島湾開墾第一区の樋門群など新田開発の歴史を今に伝える樋門、堤防等の農業土木遺産が多くあります。 ・ 彦崎地域には、国史跡にも指定され西日本有数の縄文貝塚である彦崎貝塚があります。 ・ 妹尾地域には、18世紀初頭に建立された本殿が残る栗村神社など多数の寺社が存在するほか、干拓地の飲み水確保の困難さを伝えるつちえの井戸等が残されています。 ・ 浦安地域には、岡山藩主の池田忠継廟等の歴史・文化資産があります。
<p>自然・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸内海国立公園内にある金甲山、貝殻山からは瀬戸内の海を一望できるほか、児島湖及び隣接する阿部池は西日本では珍しい国の天然記念物である真雁が越冬するなど、西日本でも有数の水鳥の観察地となっています。 ・ 迫川地域には、県南部最大級の桜である県天然記念物の大山桜があります。 ・ 児島湖周辺では市民の手により河津桜が植樹されています。 ・ 箕島地域や迫川地域では、地域住民がホタルの生息をめざした活動を行っています。
<p>特産品</p>	<p>農産物：干拓地の米麦、藤田地域のレタス、灘崎地域の千両なす等 海産物：小串地域のノリ</p>
<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浦安総合公園、灘崎町総合公園、山田グリーンパークなど、大規模な公園やスポーツ施設があります。 ・ 臨港グリーンアベニューや浦安緑道、妹尾緑道、十一番川緑地、福田緑道など、暮らしに潤いを与える緑道公園があります。 ・ 岡南地域には、野菜、果物、鮮魚等を供給する中央卸売市場、花きを供給する地方卸売市場があります。 ・ 灘崎地域には、いちご狩りやぶどう狩りの体験や、地域で栽培された農産物を購入できるロードサイドマーケットがあるサウスヴィレッジが整備されています。 ・ 浦安地域には、小型機専用の飛行場である岡南飛行場があります。
<p>主な市の出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南区役所、灘崎支所、地域センター（妹尾、福田、興除、藤田、児島、福浜） ・ 福祉事務所（南区西、南区南）、保健センター（南区西、南区南） ・ 公民館（灘崎、福田、南、興除、芳田、福浜、藤田、妹尾、光南台、岡南）

2 現状と課題

<防災・防犯>

- ・ 干拓地という特性から低地が多く、さらに、宅地化が進んだことから地域の保水調整機能も弱まり、近年の台風の大型化や局地的集中豪雨により、岡南地域、灘崎地域で発生した内水はん濫による浸水被害の対策を進めています。また、児島半島地域では高潮被害が懸念されています。
- ・ 灘崎地域、児島半島地域の山間部では、大雨・長雨や地震等の地盤の緩みによる土砂災害の発生が懸念されています。
- ・ 南海トラフ巨大地震においては、津波等により大きな被害を受ける可能性が高いと指摘されています。
- ・ 各地域では、安全・安心ネットワーク、防犯パトロール隊等により、活発な防災・防犯活動が行われていますが、多くの団体に構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。災害に強く安全・安心な地域づくりに向けて、地域の防災・防犯活動の活性化を図る取組を進めるとともに、自主防災組織の結成促進や、無関心層に対する啓発を一層行っていく必要があります。

<産業>

- ・ 岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地しており、地域の活力を一層高めるため、企業とともに地域の活性化に向けた取組を進める必要があります。
- ・ 南部に広がる広大な干拓地では、米麦を中心とする農業が盛んであり、また、藤田地域のレタス、灘崎地域の千両なすなど市場価値が高く、高値で取引されている品目があります。
- ・ 農家戸数は年々減少しており、農業の新たな担い手の育成や遊休農地の活用を促進する必要があります。

<コミュニティ>

- ・ 町内会加入率は比較的高く、地域住民による清掃活動や不法投棄監視など、環境保全活動に加え、高齢者の増加に伴う住民同士の支え合い活動が地域ぐるみで行われるとともに、地域の事業者との連携により環境美化活動や植樹活動、防災訓練をはじめとする様々な地域活動が行われています。持続可能な地域づくりを進めるため、町内会等の地域コミュニティ活動の活性化を支援していくとともに、事業者等との連携を深めていく必要があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域での祭りやイベント、集会、防災訓練等の多くが中止、延期又は規模縮小となっています。感染症に対する正しい理解と適切な感染防止対策のもと、地域活動の活性化に向けた支援を行っていく必要があります。

<特色ある地域づくり>

- ・ 県天然記念物である奥迫川の大山桜や福田地域における用水路を活用した川舟体験など、地域資源をいかしたイベントにより、世代間の交流を深め、地域の魅力を発信する取組が行われています。
- ・ 妹尾地域の音楽によるまちづくりや興除地域特産のお米、藤田地域の野菜にまつわるイベ

ントなど、地域の新たな魅力づくりや人のつながりを深める取組が行われています。

- ・ 地域防災リーダーの育成、農作物被害の防止とジビエ利用を兼ねた鳥獣被害対策など、地域課題を解決するための取組が行われています。
- ・ 歴史・文化資産等を掘り起こし、情報発信を行っていくとともに、各地域での特色ある取組を地域間で情報共有することにより、それぞれの活動をより一層活性化することが求められています。

<交通>

- ・ 外出する際に自家用車を利用する区民の割合が高く、朝夕のピーク時に発生している交通混雑を解消するため、幹線道路の整備を推進する必要があります。
- ・ 日常生活における移動が不便な地域が存在しており、こうした公共交通不便地域においては、迫川地域で運行中のデマンド型乗合タクシーを参考に、買い物や通院等の日常生活に必要な交通手段を確保していく必要があります。

<健康づくり>

- ・ 中学校区単位や保健センター単位で健康市民おかやま21の推進組織をいかし、多様な関係者との連携の幅を広げ、健康づくりを進めています。
- ・ 区内には、高齢化率が30%を超える地域も存在しており、公民館等と連携し、地域の特性に応じた健康づくりをさらに進める必要があります。

3 区づくりの将来目標

人・まち・自然が調和し、笑顔輝く実りのふるさと 南区

世界有数の人造湖である児島湖、瀬戸内海国立公園の一角をなす児島半島等の豊かな自然環境や、臨海工業地帯が広がり大規模商業施設が立地する岡南地域、都心部から連続する市街地など、地域の多面性をいかしたまちづくりを進めます。

また、実り豊かな農産物を生み出す広大な干拓地での農業を次代に引き継ぎながら、地域、事業者、行政のつながりを大切に、魅力と活力があり安全・安心に暮らせるまちづくりを進めることにより、笑顔が輝き、幸せを実感できる南区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

みんなの力で災害に備え、安全・安心を築く

- ・河川、沿岸部等の危険箇所への対策を推進しながら、自助・共助の精神で区民が互いに支え合い、協力し合う体制を強化することにより、災害による被害を最小限にとどめることのできる、災害に強い安全・安心な地域づくりを進めます。

視点 2

地域の資産をいかし、活力ある未来を創る

- ・先人が築いた全国有数の広大な干拓農地で生まれ、岡山の食を支える農業を振興することにより、豊かで活力ある未来につながるまちづくりを進めます。
- ・事業者を含めた多様な力を結集して、魅力と活力ある地域づくりを進めるとともに、固有の歴史・伝統・文化に親しみ、内外に向けて発信することにより、地域への愛着と誇りを醸成し、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

視点 3

誰もが快適・健やかに暮らせる環境を整える

- ・交通利便性の向上や生活交通の確保等を進め、住環境の快適さや利便性の維持・向上を図るとともに、地域での自主的な健康づくり活動を活性化することにより、子どもから高齢者まで誰もがいきいきと暮らせる、住む魅力に満ちたまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 地域で取り組む防災・防犯対策の充実

① 津波、浸水対策

- ・津波や台風、局地的な集中豪雨等による被害を軽減するため、国、県による海岸堤防、笹ヶ瀬川等の護岸の整備や耐震化を促進するとともに、浦安、芳田排水区など市街地等での雨水排水施設の整備等の浸水対策を行うことにより、防災機能を強化します。
- ・高潮や浸水の危険が事前に予想される場合には、児島湖の管理者や上流地域の水利権者とも協力しながら水位調整を行うなど、広域での連携を通じて浸水被害の軽減を図ります。また、町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布等を通じた共助による浸水被害の軽減・防止を図ります。

② 地域の防災・防犯力の強化

- ・いつ起こるかかわからない津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの作成や出前講座の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。また、地域との連携による避難所運営機能の充実強化を図ります。
- ・平成30年7月豪雨災害を教訓として、地域防災リーダーの育成、防災資機材の支給や防災訓練への支援等、自主防災組織に対する支援強化を図り、組織の活性化と新規結成を促進します。また、災害時の要配慮者の避難計画の策定等を支援します。
- ・避難所における過密を防ぐとともに、命を守る最適な避難行動を促すため、避難所に限らない、親族・友人宅への避難や自宅での垂直避難について、周知・啓発します。
- ・避難所では、マスク等の配備に加え、定期的な体温測定や清掃、消毒などを実施し、体調不良者のための専用スペースを確保します。
- ・子どもや若者が遊びを通じて楽しく学べる防災プログラムを提供し、無関心層に対する意識啓発を図ります。
- ・安全・安心ネットワーク等による防犯や交通安全のための自主的な地域の見回り活動を支援するとともに、防犯ボランティア団体への情報提供や研修の実施等により、活動の活性化及び地域の防犯意識の向上を図ります。
- ・犯罪や交通事故の減少等に向けた警察や防犯団体等との連携を強化するとともに、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援し、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

方向性2 活力のある農業の振興

- ・「儲かる農業」の実現に向けた各種施策を国や県、農業者団体等と連携して推進します。このため、干拓農地としての規模的な優位性や地理的利便性等をいかしながら、新規就農者等の担い手の確保、経営規模の拡大、低コストで付加価値の高い農産物の生産とその販路拡大等により、経営力の向上を図ります。また、主要な農業用排水施設の計画的で効率的な維持管理を行うとともに、農地の用排水機能の強化等による生産性の向上を図ります。
- ・サウスヴィレッジでの農業体験や農産物の直売等を通じて、農業や食への関心を深めてもら

い、都市と農村の交流促進を図ります。

方向性3 多様な担い手の参加・協働による地域活動の活性化

- ・町内会や安全・安心ネットワーク等の地域コミュニティは、災害が起こった際の重要な役割を持つ「共助」を担う単位でもあることから、その活動の活性化を支援します。
- ・地域でのクリーン作戦を支援することにより、美しく快適なまちづくりを進めるとともに、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、地域活動への参加意識の向上を図ります。
- ・区づくり推進事業等を通じて、地域防災力の向上、鳥獣被害対策、地域文化の伝承等の地域固有の課題を自ら解決しようとする地域活動を支援します。また、地域活動への参加を促進し、地域コミュニティの活性化を図ります。
- ・地縁団体のみならず、事業者、学校、NPO、行政等の多様な担い手の相互理解やつながりを深めていくことにより、地域全体のまちづくり活動を活性化し、地域の一体感のさらなる醸成を図ります。
- ・南区の情報について、広報紙やホームページに加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用して積極的に発信することにより、若い世代など、これまでまちづくりに参加していなかった層の参加機会の増加を図り、新しい視点をまちづくりに取り入れます。また、地域が主体的に行っている地域行事・活動の把握に努め、広く情報発信します。

方向性4 地域の魅力の発掘・発信

- ・各地域にある固有の歴史・伝統・文化等を再認識し、地域への関心や愛着を高めるため、国指定史跡である彦崎貝塚の公開・活用や、地域の歴史資産の由来等を記した看板等を活用するとともに、広報紙やホームページ、SNS等を活用してその魅力を区内外に発信し、他地域との交流を促進します。

方向性5 交通の利便性の向上

- ・都心部へのアクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、市道藤田浦安南町線（外環状線）や県道岡山児島線等の幹線道路の整備を進めます。また、公共交通の利便性向上を図るため、バスのわかりやすい案内情報の整備等を進めます。
- ・迫川地域で運行中のデマンド型乗合タクシーのさらなる利用促進を地域住民及び運行事業者と連携して取り組みます。他の公共交通不便地域においても、先行事例等を参考にしながら、地域住民及び交通事業者との連携により、買い物や通院等の日常生活に必要な交通手段の確保について検討します。

方向性6 健やかに暮らせる地域づくり

- ・地域の特性に応じた健康づくりをさらに進めるため、健康市民おかやま21南区地域推進会議の活動の充実を図ります。
- ・臨港グリーンアベニューから福田緑道、浦安緑道に至る約7kmの緑道公園や、楽しく体を動かすことができる浦安総合公園、灘崎町総合公園、山田グリーンパーク等の大規模公園やス

スポーツ施設等を活用し、子どもから高齢者までの健康づくりを進めます。